

岩屋山金峯寺いはやさんきんぶつじ〔出谷村の北にあり。洛陽らくやうより五里、一鳥居より十六町あり〕真言宗にして樓門ろうもんに金剛力士こんがうりきしを安ず。

額は岩屋山いはやと書して後奈良院ごならのいんの宸筆しんぴつなり。本堂〔崖造りにして山腹さんぷくにあり〕本尊不動明王ほんぞんふどう〔立像五尺余〕弘法大師こうぼうの作なり。脇士びしは毘沙門びしゃもん、地藏尊ちざうそんを安置す。又脇壇わきだんには弘法大師こうぼうの像あり。大日堂だいにちだうは本堂の西にありて、則大日如来だいにちによらいえんのぎやう役行者じやくじやを安ず。

抑当山は、久代天神そのかみてんしん医道いだうの祖神そしん薬王やくわう菩薩ぼさつと化して出現し給ふ靈場なり。其後孝徳天皇かうとくてんわうの御宇白雉元年に、役優婆塞やくうぱさくはじめて澗道を踏わけ此山に登り、数月禅定を修し、薬師如来やくしにょらいの靈告を得て当山を開基す。又厥後淳和天皇じゆんわてんわうの御宇天長六年に、弘法大師こうぼうだいし此山に登り給ふに、神童出現して曰、我尊者をこゝに待事久し、早く三密の秘法を修し王城わうじやうを鎮護し、且一切衆生の諸願を成就し病悩を扶助し給へと教へ。われは当山の守護神なりとて、飛龍と化し忽瀧に入給ふ。是によつて大師飛龍権現だいしひりようこんげんと崇め、瀧のうへに勧請し給へり。尚又権現の告によつて大師みづから不動尊ふどうそんを彫刻し、一千座の護摩を修し給へり、是当寺の本尊なり。

○奥院おくのいん〔本堂のうしろの巖上に建、崖造にして西向なり〕本尊不動明王ほんぞんふどうみやうわう〔立像五尺余〕宇多天皇うだてんわうの御願によつて菅神くわんじんの制作なり。〔代々御即位の節は、勅詔によつて宝祚延長天下安全の御祈祷として御戸開あり〕

○天神宮てんじんぐう〔堂前の左にあり〕当山の鎮守とし給ふ。遷宮の時桜一株一夜に生ず、故に桜天神さくらてんじんと号く。

○飛龍瀧ひりようのたき〔本堂の後にあり〕岩屋瀧とも称す、瀧のうへに飛龍権現ひりようこんげんの祠あり、又瀧壺のかたはらに飛龍童子ひりようどうじの影向石えいがうせき

あり。風狂の者当山に籠りて本尊を礼拝し、瀧に浴する事日毎に三度にして平癒を祈れば忽驗あり。

○弘法大師護摩洞キチガヒ〔瀧のうへにあり〕此所において大師密法を修し給へり、一丈余の洞窟なり。此ほとりの石毎に経

文鮮に居れり、是大師の所作といふ。

○香水かうすゐ〔奥院おくのゐんのうへにあり〕巖窟より滴出す、薬王薩やくわうさつた■此水を穿出して諸薬を灌洗スゞギアラヒし給へり、これによつて其香今に

おいて自然に薫る。もろくの病苦の者これを服するに癒ずといふ事なし、末代といへども此香水かうすゐの誉世に高し。又かの薩さつた■仙人せんじんに化して諸薬を調じ給へる旧跡山上にあり。

雌めんどりのやしろ社いはやとりゐ 岩屋鳥居